

命守る情熱 切れ目なく



松田医師の最後の勤務日にがっかりと握手

医師確保策 公募や紹介 頼みの綱

本県の医師数は2016年末時点では2563人で、人口10万人あたりでは全国41位。県医療薬事課によると、医師の確保には公募や紹介などに頼るしかないといい。本県でのへき地勤務について同課の担当者は「希望者が集まらず厳しい状況」と話す。

県は医師を探す自治体などに協力し、本県にゆかりのある医師や本県での勤務が可能な医師らに連絡を取り、県内の状況と医師の条

本県厳しい状況

件が合えば採用となる。担当者は、希望者が少ないと今別診療所の医師が見つかったことは運が良かったといい「後任の医師の希望と町役場の思いが合った」と胸をなで下ろす。

県への協力要請は各地からあるが、要望には応え切れていないといふ。担当者は「医師確保には人のつながりが重要。医師らに定期的にアプローチを続けている」と話した。(秋村有香)

今別町唯一の医療機関である今別診療所の所長が今月6日、松田哲朗医師(56)から兵庫県の開業医・田原義和医師(64)に引き継がれた。松田医師は2013年から所長を務め、約5年の節目を迎えたことなどから家族の待つ京都府に戻ることを決めた。両医師は「へき地での医療に貢献したい」との思いが共通。医師不足に悩む本県にあって、切れ目なく医療が継続できる幸運なケースとなり、町などの関係者は「安心している」。(秋村有香)

松田医師は京都府出身。自宅医科大学卒業後、外科医として府内の大学病院などで勤務した。「医師不足で困っている地域に貢献し、もっと患者に喜んでもらえる医療がしたい」と、

本県で勤務する大学時代の同級生の紹介を通じ、今別

今別診療所長 松田医師から田原医師へ

「へき地だからこそ最新の医療環境を」と、赴任後

はカルテの電子化や新しい医療機器導入するなど、設備を整備した。往診なども積極的に行い、町民のニーズに合わせた診療を続けた。

高齢化率が50・67%(17年2月現在)と本県で最も高い今別町。

中嶋久彰今別町長は「高齢者の多くが住民にとって非

常によることは住民にとって非

常に不安なこと。田原医師

が快諾してくれたおかげ

だ」と安堵する。

軽快な関西弁が印象的な

田原医師。町に来て間もなく

いため「これから町の状況

を見ていきた」と意気込

む「小児科が専門なので

休みの日もできる限り診た

たことをきっかけに県の担当者と連絡を取り、話し合いを重ねて本県勤務を決意した。自身の医院は休業にした。

前任の松田医師は約1年前から町に退職の意向を伝え、町や県などが後任の医師探しを進めていた。その中で田原医師の本県勤務が決まったため、県が今別診療所を紹介した。

後任の田原医師は神戸市出身。兵庫県内の大学病院や個人病院などで勤務、内科・小児科・アレルギー科の医院を開業した。

西宮市は医師が増えた

こともあり、医師が少ない

東北地方で勤務しようと思

うと探していた」という

田原医師。県が運営する医

療情報発信サイトを見つけ

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。